

日本感染症学会における活動状況

—2017年度 第2回理事会(2017年10月29日)の議論の概要から—

はじめに

2017年10月に2017年度 第2回理事会が開催されました。新しい体制がスタートし、新委員会から活動および準備状況が報告されました。実際に動き出している企画はまだ少数ですが、来年度から新しい予算計画のもと本格的な活動がスタートします。以下、その概略をお示しします。引き続き会員の皆様のご理解とご協力を宜しくお願いいたします。

1. 専門医審議会および専門医育成・教育部会

新しい体制の専門医審議会が動き出しました。新専門医制度の移行に向けて、感染症学会としての基本的スタンス、感染症専門医を適正数まで増やす方策が議論されています。何よりも感染症専門医としてのインセンティブをどのように創り出すかが重要と認識しています。このような背景の中で、第20回日本感染症学会専門医試験が9月3日に実施され、104名が受験しました。現在の会員数が11,296名(10月現在)、専門医数は1,361名であり、さらなる専門医数の増加を進めて行く必要があります。

(1) 感染症サマースクールおよび感染症スクール地方版(初期研修医向け)

専門医養成講習会として毎年開催されている感染症サマースクールが本年8月4日～5日に品川で開催されました。61名の医師にご参加いただき、感染症診療の基本と応用に関して感染症専門医に求められる知識と考え方についてご専門の先生から講義をいただきました。また、今回の基調講演では、山西弘一先生(一般財団法人大阪大学微生物研究会)にお越しいただき、突発性発疹症の原因としてヒトヘルペスウイルス6が発見された経緯と感染症専門医に求められるリサーチマインドについてお話をいただきました。2018年も8月3日～4日に感染症サマースクールを開催する予定となっています。感染症専門医を受験しようと考えている方はもちろん、感染症をもう少し深く、集中して勉強したいという方は奮ってご参加ください。さらに来年度からは初期研修医向けの「感染症スクール地方版」も開催する予定であります。全国6か所で初期研修医を対象としたセミナー(1日コース、2日コース)を考えております。詳細はホームページにアップされますので楽しみにしててください。

(2) 希少疾患に関する感染症画像資料公開

希少感染症を中心に、学会員の経験した症例(臨床的特徴を示す写真やデータなど)や疫学情報をホームページ上で共有することが決まりました。感染症デポジトリとして、学会員専用、個人情報への配慮、教育用を原則とし、情報には感染症学会のクレジットを入れて情報公開することを考えています。会員の皆様のご協力により、情報の蓄積と活用が進み、感染症教育の重要な資材・資料となることを期待しています。

(3) 症例から学ぶ感染症セミナー

本学会では、リサーチマインドを意識したセミナーとして「症例から学ぶ感染症セミナー」を継続してきました。本セミナーでは通常の症例検討に加えて、“症例の中の疑問点から研究的考察へ”の視点で深く議論することを特徴にしています。今後は、新専門医制度を考慮して、カリキュラムCレベルの希少感染症も取り上げながら本セミナーを実施していきます。引き続きご参加いただき、感染症専門医に求められる知識とリサーチマインドの修得にご活用下さい。

2. 臨床研究推進委員会

感染症の専門家には、ガイドラインの周知と活用に加えて、ガイドラインそのものを変えるエビデンスを創りだしていくという責任があります。日常診療の中の疑問点をスタートに、感染症学会という専門家集団のネットワークを活用して臨床研究を促進していきます。また得られた知見を論文にまとめて、世界に向けて情報を発信していくことも重要です。来年度は以下の活動をスタートする予定です。

(1) Accepted Paper Session

実際に臨床研究を行い、それを論文発表した経験のある先生方に、その着眼、準備・実施、そして論文化のポイントについて、解説いただくというセッションを学術講演会時に行うことと致しました。どのような臨床的着眼が大事であったのか、どのように研究に繋げていったのか、論文を作成することの難しさ、面白さなどについてご自身の経験をもとにお話しいただきます。もちろん、論文そのもののご紹介と臨床的インパクトについてもお話しいただきますが、本セッションではその発想・過程を共有していただくことに重点を置いています。臨床研究をやってみたいと考えている方の参考となり、また学会員の皆様にとって臨床研究が少しでも身近なものになってくれることを期待しています。

(2) 臨床研究サポート企画

学会員からの臨床(疫学)研究に関するアイデアを募集し、採択された課題に関して、学会のネットワークを駆使して症例を収集・解析して研究に発展させるという企画がスタートします。提案者(およびそのグループ)が中心となってリサーチを実施するという企画です。本委員会ワーキングのメンバーが、必要に応じて実験計画・解析、そして論文作成をサポートします。来年早々には公募を行い、初年度は1件 200 万円でスタートできればと思います。感染症学会員 11,000 人のネットワークを活用してどのような疫学研究ができるのか、そのアイデアと実行力を学会がサポートします。

3. 学際化・国際化委員会

本学会の特徴として、①国際的視点での思考・活動、②開業医やプライマリケア医を対象とした啓発・教育活動が重要です。その特徴をさらに強化することを目的に学際化・国際化委

員会が立ち上がりました。これまでも本学会は継続して国際学会との交流を行ってきました。本委員会はその流れをさらに強化する目的で動き出します。具体的には、来年の感染症・化学療法学会学術講演会(岡山)に米国 IDSA 理事長、欧州 ESCMID 理事長をお招きし、これからの学会間交流を継続的かつ公式事業とすることを話し合う予定です。また、学際化企画に関しても、これまでの感染症領域学会との交流だけでなく、プライマリケア関連学会や検査関連学会との連携も行う予定です。本会員が、感染症領域の診療・教育および研究で非学会員をサポートする責任があることを再認識する機会になればと考えています。

4. 男女共同参画推進委員会推進

本学会における女性会員は 2,255 人であり、全会員数に占める割合は約 20%になります。活躍している女性会員、実力のある女性会員を積極的に登用させていただき、学会運営に協力していただける仕組みを作ることが重要です。本委員会を中心に web アンケート調査を行うことが決まりました。また、HP リニューアルに合わせて、会員活動のリレー報告などの企画も考えています。男女共同参画は決して数だけの問題ではありません。男性会員も女性会員も、その熱意・能力・実績に応じて活躍していただける仕組み創り・環境創りの問題として取り組んで行きたいと思えます。

おわりに

あっという間に1年が過ぎようとしています。2018 年には第 92 回日本感染症学会学術講演会が岡山で開催されます(門田淳一 会長)。また、学会創立 100 周年に向けてカウントダウンが進んでいます。1 年 1 年、学会員の先生方のご理解と協力をいただきながら感染症診療・研究・教育のさらなる向上に向けて活動を続けていきたいと思えます

2017 年 12 月

一般社団法人日本感染症学会 理事長： 舘田一博 (東邦大学)